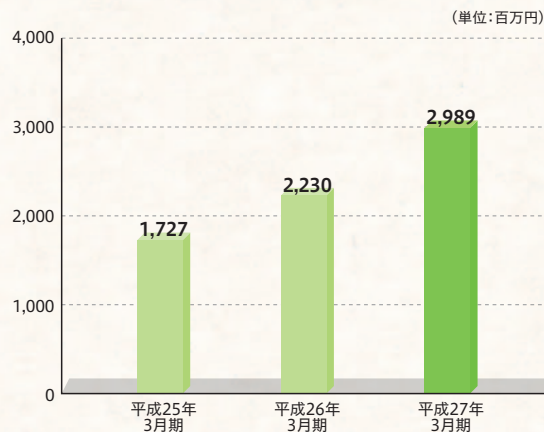


業績ハイライト(単体)

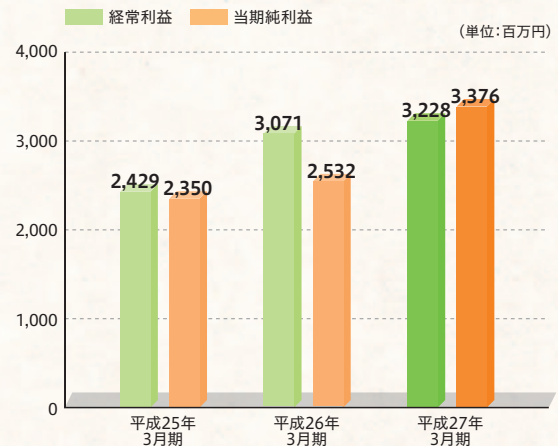
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや物件費の削減に努めたことなどから、前年同期比7億58百万円増加の29億89百万円(増減率34.0%)となりました。



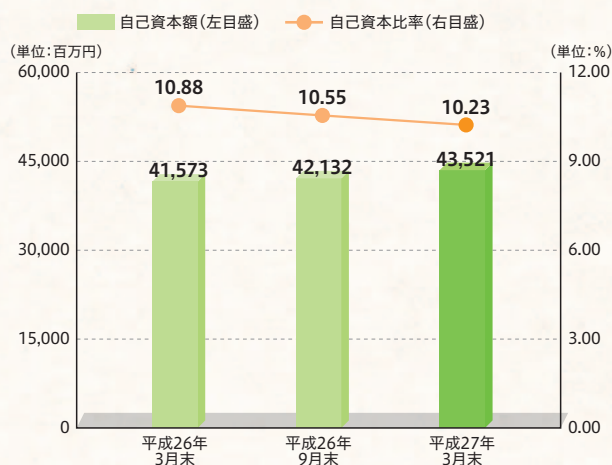
経常利益・当期純利益の状況

経常利益は、前年同期比1億56百万円増加の32億28百万円、当期純利益は、前年同期比8億43百万円増加の33億76百万円となりました。



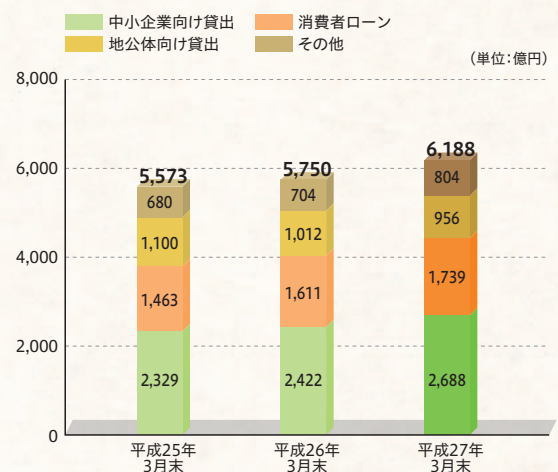
自己資本比率の状況

自己資本比率は、当期純利益を33億76百万円計上したことで、自己資本額(分子)が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット(分母)が増加したことなどから、平成26年3月末比0.65ポイント低下の10.23%となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、震災復興に係る様々な資金需要への対応により、中小企業向け貸出や住宅ローン、個人ローン貸出が増加したことなどから、平成26年3月末比437億82百万円増加の6,188億69百万円となりました。

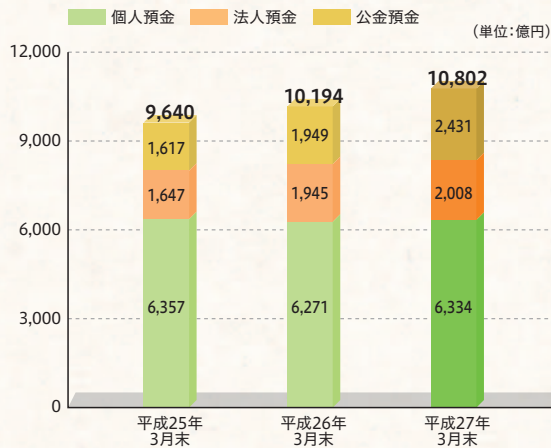


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

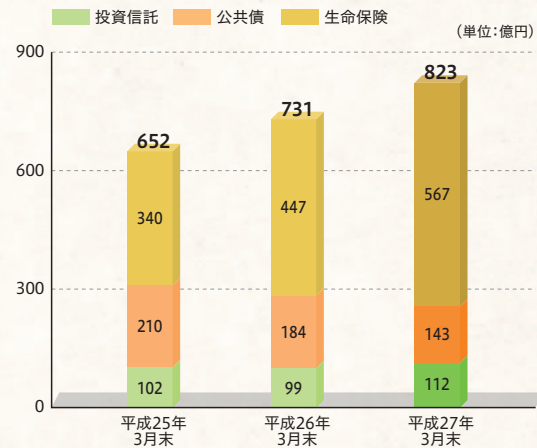
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、公金預金等の増加により、平成26年3月末比607億62百万円増加の1兆802億1百万円となりました。



預かり資産の状況

預かり資産残高は、営業店と資産運用サポートチームの販売強化により生命保険残高が増加したことなどから、平成26年3月末比92億4百万円増加の823億36百万円となりました。

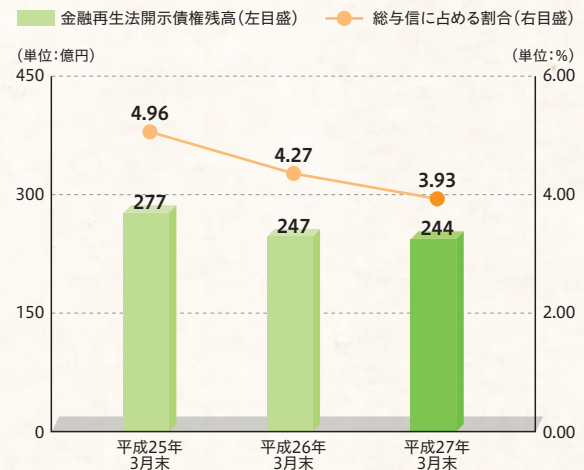


金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、一部の被災企業の業況好転や約定返済などから、平成26年3月末比3億7百万円減少の244億59百万円となりました。

総与信額に占める割合は、平成26年3月末比0.34ポイント低下の3.93%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

■ 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。